

3. 金ヶ瀬地区

(1) 地区の概要

金ヶ瀬地区は、本町の西側に位置し、用途地域と白地地域があります。

地域内には国道4号が通り、宮城県仙南運転免許センターなどが立地しています。

また、国道4号沿いの広表地区には大型商業店舗が多数立地しています。

表 7-7 人口・世帯数

行政区名	世帯数	人口
金ヶ瀬1	144	410
金ヶ瀬2	53	158
金ヶ瀬3	142	354
金ヶ瀬4	68	204
金ヶ瀬5	139	430
金ヶ瀬6	422	1,213
丑越	355	890
緑団地	41	84
湯尻	42	115
堤1	60	224
堤2	52	157
新開	34	103
新寺	46	143
合計	1,598	4,485

平成27年1月1日住民基本台帳

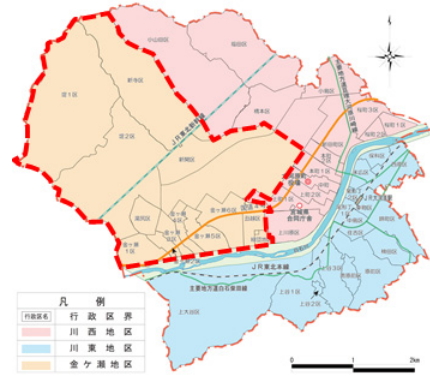


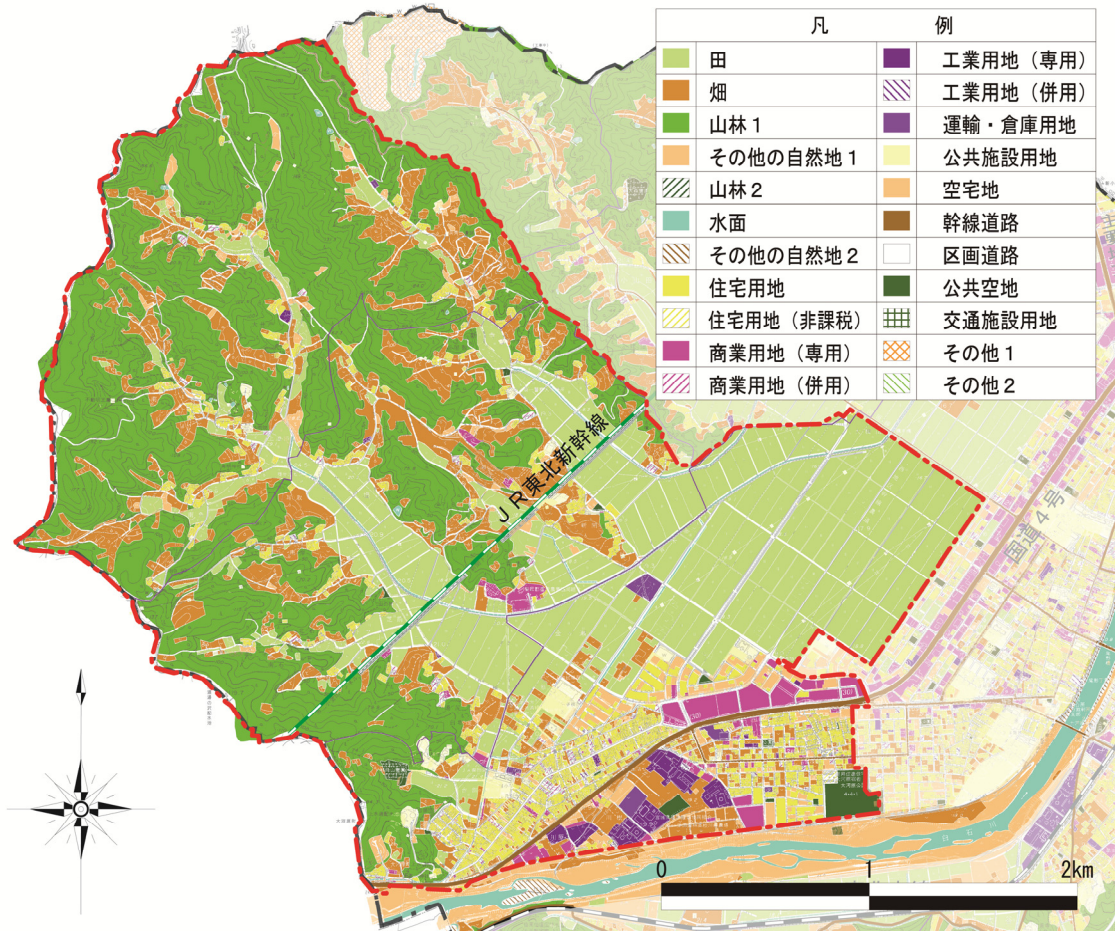
図 7-12 位置図

1) 人口

金ヶ瀬地区は、3つの地域区分の中で最も人口・世帯数が少ない地区です。

2) 土地利用

住宅用地は、国道4号付近と北側の山間部にみられます。地域の中央は農用地区域に指定され、良好な田園地域となっています。白石側沿いには、工業用地（金ヶ瀬川根工業団地）が分布しています。



出典：2010年度（平成22年度）県南部地区都市計画基礎調査（宮城県）

図 7-13 土地利用現況図

3) 住民意向

① 町民意向調査

町民意向調査から見た金ヶ瀬地区居住者の主な意見について下に示します。

表 7-8 町民意向調査の概要

項目	結果概要
主に行っている場所	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、通学は3割強が町内となり、町外が多い。 ・日用品の買い物は、地区内が6割以上と多くなっている。 ・洋服、家電、趣味等の買い物は、6割弱が町内となっており、4割強が地区内と多い。 ・休日のレクリエーションは町内が2割強と少なくなっている。 ・病院・医療は川西地区が3割弱、川東地区が1割強となるなど町内が7割と多くを占める。 ・教育・文化活動、習い事などは、町内が4割強と少ないが、その大部分は地区内となっている。
普段の移動について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地に関らず、自動車による移動が大部分を占めている。
鉄道利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅を利用する人のうち大部分がJR大河原駅を利用している。 ・駅までの交通手段は自動車が7割強と大部分を占め、路線バスの利用はほとんど見られない。 ・駅までの所要時間は10分以内が5割以上、20分以内が9割以上を占める。
デマンド型乗合タクシーについて	<ul style="list-style-type: none"> ・週数回程度利用、週1回程度利用、月数回程度利用、月1回程度利用、年数回程度利用、年1回程度の合計値が5%未満と非常に少ない。
地域のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地周辺に対する要望としては、医療・福祉施設、安全性向上、空き地・空き家の解消、道路公園の維持管理・再整備、買い物環境充実の順になっているが、回答数に大幅な差異は見られない。
今後の商業地のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・国道4号沿いでの商業機能充実を求める意見が4割強と多く、次いで大河原駅前が3割弱となっている。
今後の工業地のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・金ヶ瀬川根工業団地への企業誘致を求める意見が約6割と多い。
今後の農地のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・無秩序な開発は避けるべきだが、計画的な開発などで減少することはやむを得ないとする意見が6割弱と大部分を占めた。
今後の山林のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ・無秩序な開発は避けるべきだが、計画的な開発などで減少することはやむを得ないとする意見が3割強を占めた。 ・遊歩道等レクリエーションの場の整備が3割弱と一定数見られた。
町の拠点（中心地）の場所と機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・大河原町役場、商店街およびその周辺と国道4号沿い（広表周辺）が3割強と多く、地区内で異なる考えを持つことがわかる。 ・拠点には、日常生活に必要な店舗・サービス機能の充実を求める人が4割弱、医療・福祉施設が3割弱とこの2つを求める意見が多く、飲食店等や趣味・文化活動の場としてのニーズは低かった。
今後の道路整備や管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難路整備を求める意見が最も多く、街路灯、歩行者安全性、生活道路再整備へのニーズが高かった。 ・幹線道路の充実や街並み景観に対するニーズは低かった。
居住地近隣の公園について	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩施設の整備を求める意見が最も多く、次いで維持管理の充実、遊具の設置・充実へのニーズが高かった。 ・遊具や植栽充実へのニーズはあまり高くなかった。
大河原らしさを感じる景観について	<ul style="list-style-type: none"> ・葦神堰、一目千本桜を前景とした蔵王連峰への眺望を大河原らしい景観と考える人が8割以上と非常に多く、その他白石川に関連する景観を大河原らしいとする人が多かった。 ・大高山の桜や遊歩道の景観と答える人も2割程度見られた。

②住民ワークショップ

のどかで住みやすく、大高山神社や梅団地、里山の風景が良いという意見がある一方で、道路の狭さや街路灯の少なさ、公共交通の不便さに対する意見が多く見られました。

〈住環境〉

第1回WS結果(地域の魅力と課題)	
地域の魅力	地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 閑静で災害が少なく穏やかな地区である ・ 駐在所、郵便局(ATM)、小学校、保育園、集会所、バス停などが近くにあって便利 ・ 菜の花、アジサイ、ひまわりなど花にあふれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金ヶ瀬小の裏道も街灯が少ない ・ 堤地区は利便施設まで距離がある ・ 地域内の10軒に1軒は空き家となっている
第2回WS結果(必要な取組み)	
<p>○子育て世代の定住促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で子育てする環境を充実させていく ・ 地域と学校との連携を強める <p>○空き家を活用した定住・観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルポートとして活用する 	<p>○コミュニティ力を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のイベント会場として活用する <p>○静かで住みやすく便利な住環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老人福祉施設を充実させ老後も暮らしやすくする ・ 商店を維持して買い物の利便性を守る ・ 狭い範囲でも回せるデマンドタクシーの運行

〈交通・インフラ〉

第1回WS結果(地域の魅力と課題)	
地域の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大高山神社の下の信号機の交差点は時々大きい事故がある ・ 通学路の安全性が保たれていないので整備してほしい ・ 側溝や道路の破損が目立つ ・ 大雨の時道路が冠水する/排水が悪い通学路 ・ 神上沢の道路拡幅はよいが大雨のたびに路面がでこぼこになるので抜本的整備をしてほしい ・ 小川を改修して(ヒューム管をつなげて)道を広げたところが大雨で氾濫してしまう ・ 堤地区も下水道を整備してほしい ・ 犯罪防止のためにも防犯灯がほしい ・ バスの本数が少ない/100円バスが欲しい/バスが通っていないので高齢者は大変 	
第2回WS結果(必要な取組み)	
<p>○安心安全な社会インフラの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故の多い交差点の改良 ・ 通学路を踏まえた道路の安全性の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水性の悪い道路の改善 ・ 下水道の早期整備 ・ 街路灯・防犯灯の適切な設置

〈公園・緑地〉

第1回WS結果(地域の魅力と課題)	
地域の魅力	地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大河原公園の桜がきれい ・ 空気がゆったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園で子どもが遊んでいない ・ スポーツ施設(野球場など)が少ない
第2回WS結果(必要な取組み)	
<p>○公園・緑地の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親子でゆっくりできる子どもの遊び場づくり ・ ドローンやラジコンも楽しめる公園にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園・緑地で遊びやすくなるための利便性を高める ・ 遊具などの適切な維持管理を行う

〈大高山〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の魅力	地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・大高山神社裏手からの遊歩道が良い ・大高山神社の祭りがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内看板が見えにくい ・大高山神社の駐車場が足りない
第2回WS結果（必要な取組み）	
<ul style="list-style-type: none"> ○大高山を観光や居住魅力向上に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・主な眺望場所に東屋や案内看板を整備する ・サイクリングロードのコースに含める 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊歩道の再整備・活用による居住魅力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・大高山～手倉森～堤地区～新寺地の遊歩道の整備 ・ルート案内など遊歩道をもっとアピールする

〈観光・PR〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の魅力	地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・金ヶ瀬小学校まわりの田園風景が良い ・梅祭りがある / 大河原公園の桜がきれい ・頼母山を望む風景が良い ・温泉や大高山神社がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅ダナの道が地元でもよくわからない ・大河原遊歩道が古くなって使えない ・アピールポイントがあっても発信されていない
第2回WS結果（必要な取組み）	
<ul style="list-style-type: none"> ○田園風景や梅を観光や居住魅力向上に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・梅のオーナー制度や農業体験を推進する ・バス通りにラベンダーや芝桜を増やす ・金ヶ瀬地区の名所をもっとPRする ・桜だけでなく年中いろいろなイベントを実施 ○温泉を観光や居住魅力向上に活用 <ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設とのコラボで誘客する 	<ul style="list-style-type: none"> ○町・地域のPR・イベントの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・町全体をもっとPRすべき！ ・住みやすさをもっとアピール！ ・千本桜に行ったとわかるお土産を作る！ ・観光パンフレットを積極的にPR

〈コミュニティ〉

第1回WS結果（地域の魅力と課題）	
地域の魅力	地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・梅団地ではお花いっぱい運動をとおして親子のふれあいがある ・近隣は幼少のころから顔なじみが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたくなるようなお茶会などの場所がない ・人と人のつながりが希薄になり、隣近所のお茶飲みもほとんどなくなった
第2回WS結果（必要な取組み）	
<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ力を活かしたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りや花壇整備など地域活動を積極的に推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動をとおして若い世代のコミュニティ参加を促す ・子どもも高齢者も立ち寄りやすい場所づくり

(2) まちづくりの課題整理

金ケ瀬地区の現状とまちづくりの課題について、下図のとおり整理しました。

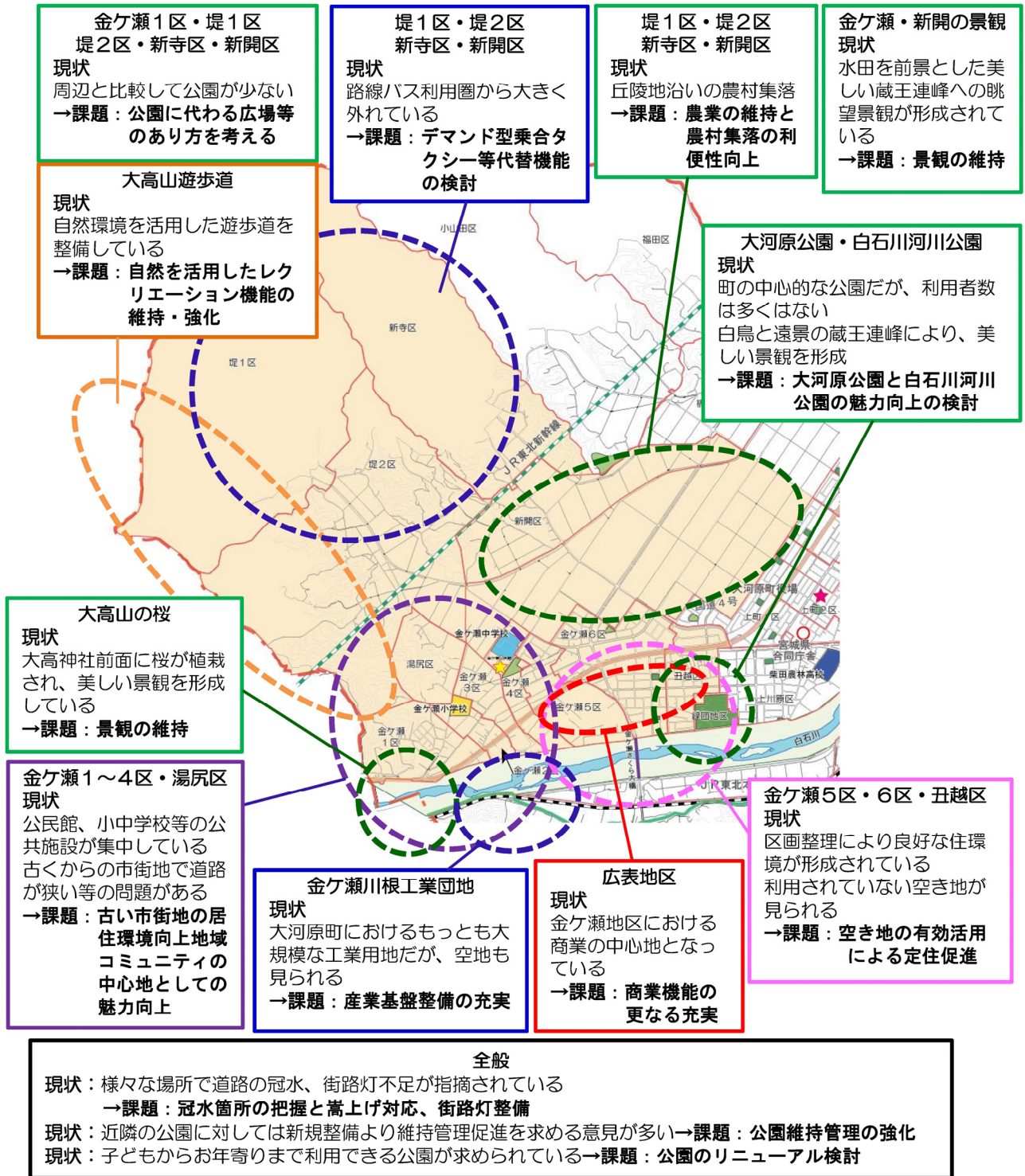


図7-14 まちづくり課題図

(3) 地区の目標像

1) 地区の目標像

金ケ瀬地区の現況と課題、住民ワークショップの結果から、金ケ瀬地区のまちづくりに必要な「キーワード」を抽出し、「地域の目標像」を検討しました。

〈キーワード〉

田園風景 大高山神社 遊歩道（友遊こみち） 公園が少ない 子どもが遊べる場所が少ない
昔馴染みのコミュニティ 住みやすい 高齢化 公共交通 広表地区

〈地域の目標像〉

**昔馴染みのコミュニティと新たな定住者が交流し、
魅力ある自然や風景と便利が同居する
和やかで暮らしやすいまち**

2) まちづくりの目標

第5章 都市づくりの目標で整理した「都市づくりの基本方針」および地区の目標像を踏まえ、金ケ瀬地区におけるまちづくりの方針を定めます。

①集約型都市（コンパクトシティ+ネットワーク）の核となる商業・コミュニティの中心づくり

- ・既存市街地内にある低・未利用地を有効活用するために、住居や生活サービス施設の立地を誘導し、市街地の拡大を極力抑えることで既存市街地が高密度となるよう誘導を図り、市街地の拡大を抑制します。
- ・金ケ瀬地区内での生活を支え、コミュニティを育てる地域内生活拠点を形成します。

②安全・安心で生活を楽しむことができる住環境づくり

- ・水害時避難場所、避難路、避難誘導施設（サイン等）の整備による水害時避難の円滑化を図ります。
- ・災害時に代替ルートとなる道路整備を検討し、幹線道路の強靱化を図ります。
- ・道路の拡幅、隅切確保、街路灯整備、歩道整備、路面表示整備等により生活道路の安全性を高めます。
- ・空き家の再利用や低・未利用地を活用し、居住魅力を高めます。
- ・都市公園、公共施設等への備蓄倉庫、防災トイレ等災害時に活用可能な施設の設置を進めます。
- ・コミュニティの活動を支える施設や、充実した子育て環境の維持及び利便性・魅力向上について検討します。

③仙南地域の交通・商圈の中心拠点づくり

- ・大規模商業店舗が集積する国道4号沿道（広表）への更なる商業機能誘導を図ります。

④地域の魅力や歴史を活かした産業や観光交流に資する都市づくり

- ・金ヶ瀬川根工業団地への、工場・事業所等の誘致に努めます。
- ・旧奥州街道沿いの名残を伝える歴史的建造物等の歴史資源の有効活用と街並みや大高山神社の桜を活用した景観づくりによる居住魅力向上及び交流人口拡大、賑わい創出を図ります。
- ・大高山神社の桜、堤梅団地、新開地区からの蔵王への眺望、おおがわら天然温泉等の地域資源を繋ぐ里山ネットワークづくりにより居住魅力向上と交流人口拡大を図ります。

⑤豊かな自然の恩恵を活かした都市づくり

- ・まとまった農地の維持や耕作放棄地の再利用推進による営農環境の保全を図ります。
- ・自然環境の保全や散策路の整備等により、丘陵地のレクリエーション機能の強化による魅力向上、大高山、堤梅団地、新開地区の田園等を繋ぐ里山散策ネットワークづくりに取り組みます。

⑥情報共有・連携・役割分担の明確化による住民が主役のまちづくり

- ・計画段階からの住民参画推進や各種情報発信、勉強会開催によりまちづくりへの町民意識の向上を図ります。



広表地区



旧奥州街道沿いの市街地



金ヶ瀬川根工業団地



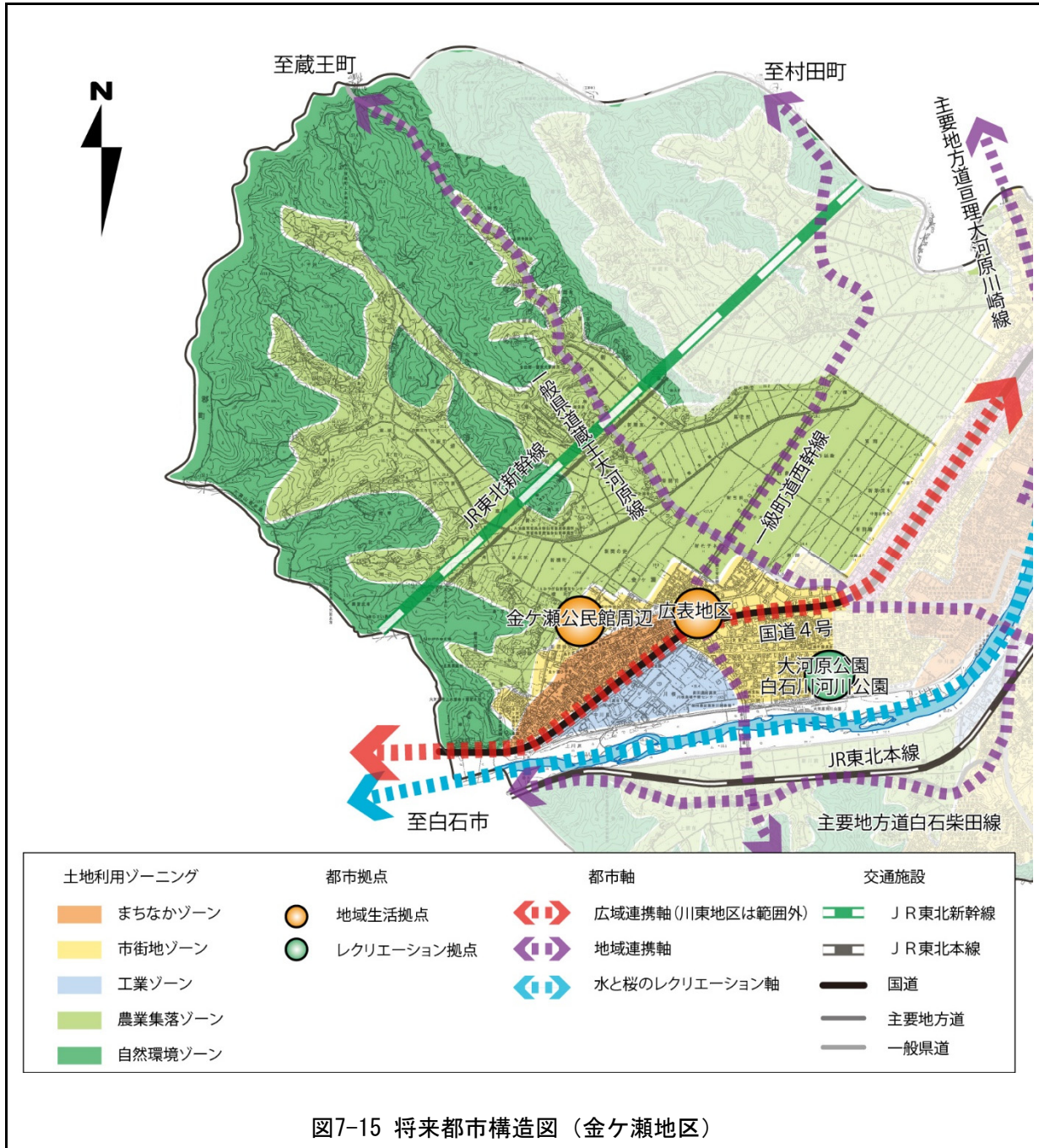
大高山遊歩道

3) 将来都市構造

広表地区に店舗が集積していること、豊かな里山環境に恵まれていることを踏まえ、既存の都市構造を基本とし金ヶ瀬地区の将来的なゾーニング、都市拠点、都市軸を下表のとおり定めます。

表 7-9 将来都市構造

〈土地利用ゾーニング〉	
①まちなかゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の用途地域内で、古くからの市街地を形成していた場所を「まちなかゾーン」として位置づけます。 ・ 各地域の中心部として、コンパクトでにぎわいがある市街地を形成します。
②市街地ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の用途地域内で、昭和30年以降に実施してきた土地区画整理事業によって整備された場所や山間部付近の市街地を「市街地ゾーン」として位置づけます。 ・ 都市基盤の機能を高め、居住環境の充実を図ります。
③工業ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金ヶ瀬川根工業団地を「工業ゾーン」として位置づけます。 ・ 工場や企業のための都市基盤整備を維持します。
④農業集落ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用途地域外の低地を中心に農的土地利用が図られている場所を「農業集落ゾーン」として位置づけます。 ・ 営農環境や集落の住環境を保全し、調和のとれた田園景観を目指します。
⑤自然環境ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用途地域外のうち、丘陵地を中心とした町外周を「自然環境ゾーン」として位置づけます。 ・ 自然環境を保全するとともに既存の遊歩道や里山景観を核としたレクリエーション機能の強化を目指します。
〈都市拠点〉	
①地域生活拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広表・金ヶ瀬公民館周辺を日常生活を支える地域生活拠点として位置づけます。 ・ 地域に根ざした生活サービス機能や医療・福祉機能を集約するとともに、コミュニティ拠点としての活性化を目指します。
②レクリエーション拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白石川河川公園および大河原公園を「レクリエーション拠点」として位置づけます。
〈都市軸〉	
①広域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東地方と東北地方を結ぶ国道4号を、「広域連携軸」として位置づけます。 ・ 既存道路や街路樹の適正な維持管理により、その機能を維持します。
②地域連携軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本町を横断する白石川に跨り、本町と仙南地域の各市町を結ぶ一般県道大河原蔵王線、一級町道西幹線を「地域連携軸」として位置つけます。 ・ 既存道路や街路樹の適正な維持管理により、その機能を維持します。
③水と桜のレクリエーション軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白石川を「水と桜のレクリエーション軸」として位置づけます。 ・ 歩行者路やサイクリングロードの整備や強化を図るとともに、河川と一目千本桜を活用した景観形成を図ることで、レクリエーション拠点の繋がりを強化し、本町を象徴する白石川の連続した景観の魅力を強化します。



(4) 都市づくりの基本方針（地域別構想）

1) 土地利用の方針

既存の土地利用や用途地域指定状況、各種法規制状況から、各ゾーンをさらに分割し、それぞれの土地利用配置方針を整理します。

ゾーン・位置		土地利用配置方針
まちなかゾーン		・低・未利用地等の活用により、定住人口確保の受け皿となる住宅用地を確保します。
市街地ゾーン	地域生活拠点 (広表地区)	・生活利便施設の更なる集積を図ります。
	地域生活拠点 (金ヶ瀬公民館周辺)	・コミュニティ施設の機能強化を図ります。
	その他の市街地	・低・未利用地等の活用により、定住人口確保の受け皿となる住宅用地を確保します。
工業ゾーン	金ヶ瀬川根工業団地	・既存の工場、事業所を中心とした土地利用の維持を図ります。
農業集落ゾーン	その他の場所	・農地集積による農業規模の拡大を推進します。 ・農業集落の居住環境の維持・向上を図ります。
自然環境ゾーン		・森林については、適切な保全を図ります。 ・自然環境や里山を活用したレクリエーション機能を強化します。
白石川	レクリエーション拠点	・白石川河川敷の公園や隣接する大河原公園において、既存のレクリエーション機能の維持・強化を図ります。
	その他河川敷空間	・レクリエーション拠点間を繋ぐ歩行者・自転車の移動空間としての機能を高めます。

2) 市街地整備および保全の方針

「まちなかゾーン」、「市街地ゾーン」、「産業ゾーン」および「農業集落ゾーン」の整備方針を整理します。

ゾーン・位置		市街地整備方針
まちなかゾーン	ゾーン全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭隘道路の改良や街路灯の設置を推進し、日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保します。 ・ 豪雨時に冠水する生活道路については、優先順位を定め冠水の解消に努めます。
市街地ゾーン	地域生活拠点 (広表地区) (金ヶ瀬公民館周辺)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種生活利便施設や金ヶ瀬公民館の周辺道路については、利用者がアクセスしやすいよう道路環境の向上や周辺における駐車場の整備を検討します。
	ゾーン全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地区画整理事業によって整備された住宅地や新興住宅地においては、整然とした住宅地環境維持のために、コミュニティによる植栽活動の促進について検討します。
工業ゾーン	金ヶ瀬川根工業団地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金ヶ瀬川根工業団地の未利用地の活用、既存工場エリアの環境保全を図ります。
農業集落ゾーン	ゾーン全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営農環境や自然環境との調和に配慮した集落環境の維持・整備を図ります。 ・ 人口減少や高齢化の進展に配慮し、地域コミュニティの維持・向上に向けて集会所の適正な維持管理や周辺環境の整備を図ります。

3) 交通施設の整備・保全および見直し方針

①主要幹線道路

- ・県内外または仙南広域圏を繋ぐ道路を「主要幹線道路」と位置づけます。
- ・概成済路線および未整備都市計画道路については、「都市計画道路見直しガイドライン（改定版）（平成30年3月宮城県土木部）」に基づき、見直しについて検討します。

〈該当する路線〉

国道4号、一般県道蔵王大河原線、一級町道西幹線

路線名称		整備・保全および見直し方針
広域連携軸	国道4号	・国道4号を「広域幹線軸」と位置づけ、県内外との円滑な連絡を確保するために、既存の交通機能を維持します。
地域連携軸	一般県道蔵王大河原線	・既存の交通機能を維持するとともに、狭隘区間の拡幅整備を推進します。
	一級町道西幹線	・既存の交通機能を維持します。

②地域内幹線道路

- ・都市幹線道路の機能を補完し、金ヶ瀬地区内の円滑な移動を支える道路を「地域内幹線道路」と位置づけます。

〈該当する路線〉

(都) 東上線

路線名称	整備・保全および見直し方針
(都) 東上線	・既存の交通機能を維持します。

③生活道路

- ・まちなかゾーン、市街地ゾーン、農業集落ゾーンにおいて、生活道路の課題箇所を整理し、狭隘道路の拡幅、隅切整備、歩道整備、降雨時冠水区間等の道路改良を推進し、日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保します。

〈バス交通〉

- ・関係機関と連携し、大河原駅を中心とした路線バスルートを維持します。
- ・路線バスルートから大きく離れている堤1区、堤2区、新寺区、新開区においては、交通を補助する機能として、既存のデマンド型乗合タクシーの機能強化について検討します。

4) 公園緑地等の整備方針

①都市公園

- ・都市公園およびそれに準ずる空間の合計値が都市公園法施行令第1条の2で規定されている「住民1人当たり10㎡以上」となるよう公園整備を検討するとともに空き地を活用した公共空地となる空間の整備を検討します。また、住民意向を踏まえた整備と適正な維持管理を図ります。
- ・市街地の状況を考慮した都市計画公園配置の見直しを検討します。
- ・本町の中核的な公園である大河原公園については、住民意向調査結果に留意し、施設の再整備と適正な維持管理を図ります。また、安全な親水空間の整備を検討します。

②森林の有効活用

- ・大高山神社を起点とする大高山遊歩道については、地域住民からの利用ニーズが高くなっていることから、散策路の適正な維持管理や機能強化、散策路としての魅力を高める整備について検討します。

5) 景観形成の方針

- ・全体構想および住民意向を踏まえ、景観形成の方針を整理します。
- ・住民意向では、白石川や一目千本桜、それを前景とした蔵王への眺望を大河原らしい景観として捉えていることがわかります。また、蔵王と田園による景観にも魅力を感じていることが分かります。
- ・住民ワークショップでは、大高山からスタートする遊歩道の魅力について多くの意見があり、これを踏まえて景観形成を図ります。

①蔵王連峰を背景にした景観の保全

- ・本町の至るところから見ることができる蔵王連峰は、河川景観や市街地景観、田園景観と一体となり美しい景観を創り出しています。蔵王連峰への眺望景観を確保するために、建築物の高さは眺望を阻害しないよう配慮するとともに、街路樹についても視線を阻害しないよう適正な維持管理を推進します。なお、金ヶ瀬川根工業団地については、建築物の高さへの配慮は企業立地を阻害する要因となることが想定されるため、高さの配慮とは異なる手法について検討します。

②河川景観

- ・白石川の水面と一目千本桜が一体となった河川景観は、本町のシンボルとして、広く町民にも愛されています。この景観を維持しその魅力を高めるために、河川空間の適正な維持管理を推進するとともに特に魅力的な場所については景観整備を行います。

③歴史的景観

- ・旧奥州街道は、町の歴史を今に伝える重要な景観資源です。旧奥州街道が横断するまちなかゾーンにおいて、道路舗装や道路構造物等の改修にあたってはその歴史に配慮した景観整備を行うとともに、沿道建築物については景観に配慮したルール設定を検討します。
- ・大高山神社の斜面に植樹されている多くの桜は、金ヶ瀬地区においては重要な景観を形成しています。この景観を保全するために、この景観の魅力を損なわないよう、周辺における公共施設の改修時には景観に配慮します。

④市街地・道路景観

- ・金ヶ瀬公民館をはじめとしたコミュニティ施設周辺の屋外空間については、景観整備を検討します。
- ・国道4号をはじめとした幹線道路については、多くの町民が利用し町外からの来訪者の利用が見込まれることから、街路樹の適正な維持管理を進めるとともに、今後設置される屋外広告物のルール設定や分かりやすい案内標識の設置等による魅力的な道路景観づくりを進めます。

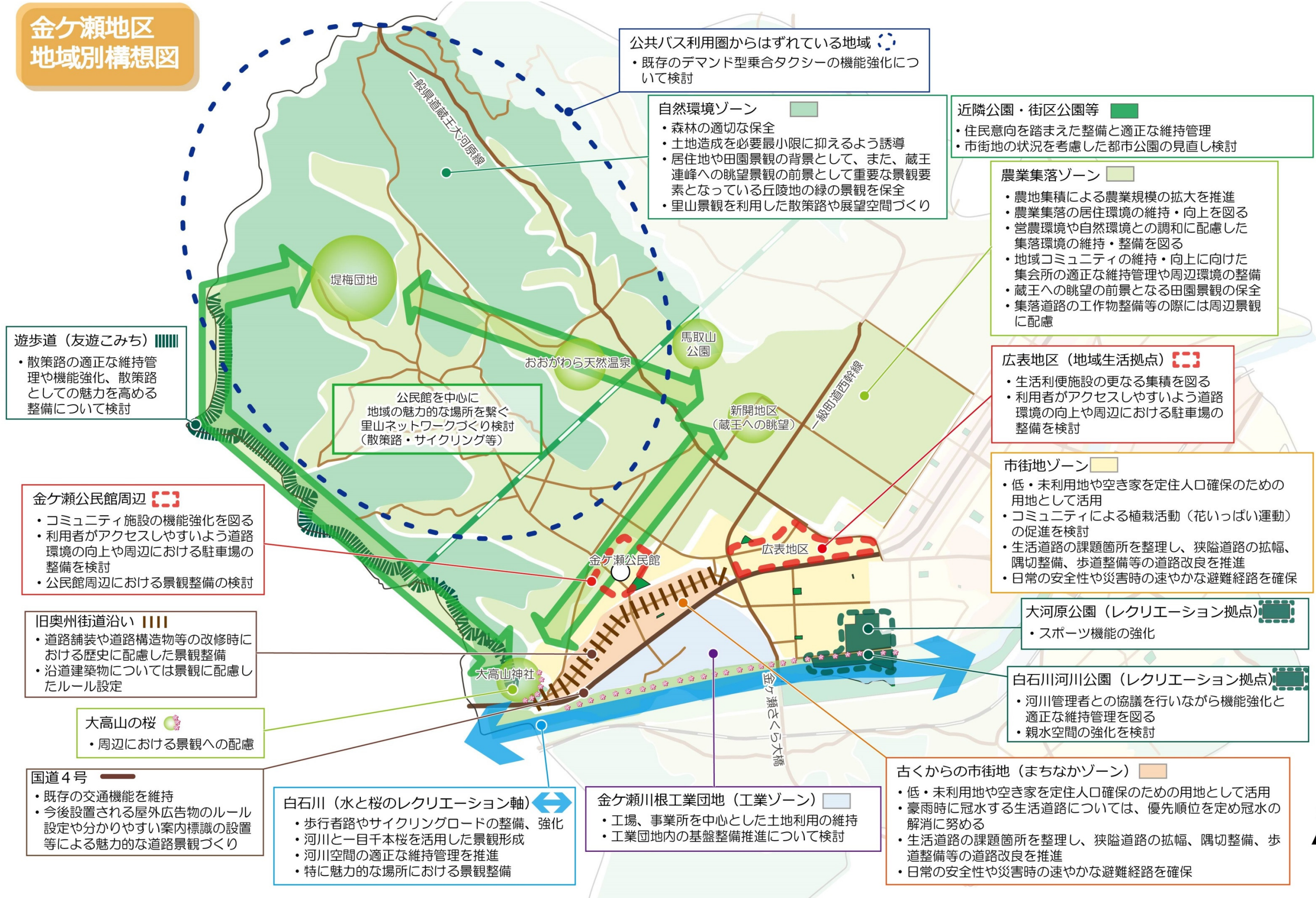
⑤自然景観

- ・白石川の流れにより形成された平野とそれを取り囲む南北の丘陵地による地形は、本町の景観を特徴付ける重要な要素となっているため、土地造成を必要最小限に抑えるよう誘導します。
- ・自然環境ゾーンは、居住地や田園景観の背景として、また、蔵王連峰への眺望景観の前景として重要な景観要素となっているため、丘陵地の緑の保全を図ります。
- ・コミュニティ活動の中心である金ヶ瀬公民館を中心に、金ヶ瀬地区の魅力的な景観資源である大高山、堤梅団地、新開地区から蔵王への眺望、馬取山公園等を繋ぐ散策路やサイクリングロード整備による里山ネットワークづくりを検討します。

⑥田園景観

- ・金ヶ瀬・新開地区の広がりのある水田は、背景となる緑や蔵王連峰と一体となった、美しい田園景観を形成していることから、稲作の維持を図るとともに、集落道路の工作物整備等の際には周辺景観に配慮します。

金ヶ瀬地区 地域別構想図



公共バス利用圏からはずれている地域

- 既存のデマンド型乗合タクシーの機能強化について検討

自然環境ゾーン

- 森林の適切な保全
- 土地造成を必要最小限に抑えるよう誘導
- 居住地や田園景観の背景として、また、蔵王連峰への眺望景観の前景として重要な景観要素となっている丘陵地の緑の景観を保全
- 里山景観を利用した散策路や展望空間づくり

近隣公園・街区公園等

- 住民意向を踏まえた整備と適正な維持管理
- 市街地の状況を考慮した都市公園の見直し検討

農業集落ゾーン

- 農地集積による農業規模の拡大を推進
- 農業集落の居住環境の維持・向上を図る
- 営農環境や自然環境との調和に配慮した集落環境の維持・整備を図る
- 地域コミュニティの維持・向上に向けた集会所の適正な維持管理や周辺環境の整備
- 蔵王への眺望の前景となる田園景観の保全
- 集落道路の工作物整備等の際には周辺景観に配慮

広表地区（地域生活拠点）

- 生活利便施設の更なる集積を図る
- 利用者がアクセスしやすいよう道路環境の向上や周辺における駐車場の整備を検討

市街地ゾーン

- 低・未利用地や空き家を定住人口確保のための用地として活用
- コミュニティによる植栽活動（花いっぱい運動）の促進を検討
- 生活道路の課題箇所を整理し、狭隘道路の拡幅、隅切整備、歩道整備等の道路改良を推進
- 日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保

大河原公園（レクリエーション拠点）

- スポーツ機能の強化

白石川河川公園（レクリエーション拠点）

- 河川管理者との協議を行いながら機能強化と適正な維持管理を図る
- 親水空間の強化を検討

古くからの市街地（まちなかゾーン）

- 低・未利用地や空き家を定住人口確保のための用地として活用
- 豪雨時に冠水する生活道路については、優先順位を定め冠水の解消に努める
- 生活道路の課題箇所を整理し、狭隘道路の拡幅、隅切整備、歩道整備等の道路改良を推進
- 日常の安全性や災害時の速やかな避難経路を確保

金ヶ瀬川根工業団地（工業ゾーン）

- 工場、事業所を中心とした土地利用の維持
- 工業団地内の基盤整備推進について検討

白石川（水と桜のレクリエーション軸）

- 歩行者路やサイクリングロードの整備、強化
- 河川と一目千本桜を活用した景観形成
- 河川空間の適正な維持管理を推進
- 特に魅力的な場所における景観整備

遊歩道（友遊こみち）

- 散策路の適正な維持管理や機能強化、散策路としての魅力を高める整備について検討

公民館を中心に地域の魅力的な場所を繋ぐ里山ネットワークづくり検討（散策路・サイクリング等）

金ヶ瀬公民館周辺

- コミュニティ施設の機能強化を図る
- 利用者がアクセスしやすいよう道路環境の向上や周辺における駐車場の整備を検討
- 公民館周辺における景観整備の検討

旧奥州街道沿い

- 道路舗装や道路構造物等の改修時における歴史に配慮した景観整備
- 沿道建築物については景観に配慮したルール設定

大高山の桜

- 周辺における景観への配慮

国道4号

- 既存の交通機能を維持
- 今後設置される屋外広告物のルール設定や分かりやすい案内標識の設置等による魅力的な道路景観づくり

